

5 畜 産

項 目	作 業 内 容
(1) 台風対策	(今月の作業のポイント) ○台風対策 ○秋バエ対策 ○暑熱対策の継続 9月は、1年の中でも台風が接近しやすい時期のため、台風情報に十分に注意し、あらかじめ対策を講じておく。 ア 事前準備 台風情報に注意し、畜舎や堆肥舎等はあらかじめ点検し、施設を補強する等の防風対策を十分に行う。特に開閉部はしっかりと固定し、可能な場合は防鳥ネットを巻き上げておくなど倒壊や破損が生じないように注意する。また、浸水を防ぐため畜舎等の周辺に排水溝を掘るとともに、側溝等の土砂は取り除いておく。 停電すると、搾乳作業及びバルククーラー等の運転に支障がでるため、発電機等の確保（リース等）を確認し、所有している場合は試運転を行い、使用方法や駆動時間を確認するとともに、十分な燃料も確保しておく。自動給餌器は、停電時の代替給与方法を確認し、断水の可能性がある場合は、最小限の飲水量を貯水タンク等で確保する。 イ 台風通過後の対策 台風の通過後は高温となるおそれがあるので、気温が上がる場合には家畜の暑熱対策を実施する。また、畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、洗浄と消毒を行い疾病等の発生防止に努める。 収穫期を迎えた飼料用トウモロコシ等の飼料作物は、台風通過による倒伏、折損の被害を受け回復が期待できない場合は、早急に収穫調製作業を行う。調製にあたっては、土砂等が混入しないように注意する。
(2) 秋バエ対策	晩夏から秋口に発生するハエは、俗に「秋バエ」と呼ばれ、特にサシバエが多くなる傾向がある。サシバエは、痛みやストレスの原因となるばかりか、牛伝染性リンパ腫やサルモネラ症等の感染症を媒介し衛生環境を悪化させる。サシバエに吸血された牛は落ち着いて横臥できず、採食量の減少から増体や乳量

項 目	作 業 内 容								
(3) 暑熱対策の 継続	等も低下するとされる。また、ハエの発生は、近隣からの苦情の原因となるため、大量発生する前に早めの対策を行う。								
	ア 発生源対策（産卵、孵化させない）								
	給餌器（飼槽）や給水器等の発生源（表 1）となる場所の除ふんや清掃をこまめに行う。								
	表 1 畜舎別のハエの主な発生源								
	<table><tr><td>畜舎</td><td>主な発生源</td></tr><tr><td>牛舎</td><td>給餌器・給水器周辺、バーンクリーナー、堆肥舎等</td></tr><tr><td>豚舎</td><td>給餌器周辺、スノコ下、ふん処理施設、汚水処理施設等</td></tr><tr><td>鶏舎</td><td>給餌器周辺、床・ふん板、ふんベルト等</td></tr></table>	畜舎	主な発生源	牛舎	給餌器・給水器周辺、バーンクリーナー、堆肥舎等	豚舎	給餌器周辺、スノコ下、ふん処理施設、汚水処理施設等	鶏舎	給餌器周辺、床・ふん板、ふんベルト等
	畜舎	主な発生源							
	牛舎	給餌器・給水器周辺、バーンクリーナー、堆肥舎等							
	豚舎	給餌器周辺、スノコ下、ふん処理施設、汚水処理施設等							
	鶏舎	給餌器周辺、床・ふん板、ふんベルト等							
	イ 幼虫対策								
ハエ駆除は幼虫対策を主体とし、成虫対策を併用するのが基本である。特に幼虫は、昆虫成長制御剤（IGR：脱皮阻害剤）の利用が効果的であり、春先と同様に、ハエの発生が予想される前から定期的な対策を心がける。									
ウ 成虫対策									
秋バエは、春に使った成虫殺虫剤に対し耐性ができている場合があり、十分な殺虫効果が得られない時は、別の薬剤を使用する。吸血性のサシバエは、殺虫誘引剤（ベイト剤）では効果がないため、粘着シート等の使用も検討する。また、サシバエ対策では、薬剤散布等に加えて休息する畜舎周辺の草むら等を除草することも有効である。									
朝晩を涼しく感じるようになると、夜間の送風を止めることがあるが、日中は依然として、家畜の適温域（表 2）を超える高い気温（表 3）が予想される。このため、夜間に送風を止めると、家畜の体熱放散が不十分となり、日中に上昇した体温が夜間に下がらず、夏バテが長引くことがある。									
最低気温（表 3）が 20℃程度に低下（9 月中旬～下旬）するまでは、家畜の様子を確認しながら夜間の送風を継続する。									

（作成 畜産研究センター）